

平成26年9月定例会 経済委員会（事前）

平成26年9月19日（金）

〔委員会の概要 商工労働部関係〕

喜多委員長

休憩前に引き続き、委員会を開きます。（13時05分）

これより、商工労働部関係の調査を行います。

この際、商工労働部関係の9月定例会提出予定議案について理事者側から説明願うとともに、報告事項があればこれを受けることにいたします。

【提出予定議案】（資料①②）

- 議案第1号 平成26年度徳島県一般会計補正予算（第3号）
- 議案第2号 平成26年度徳島県一般会計補正予算（第4号）

【報告事項】

- 三井住友海上火災保険株式会社との包括業務協定の締結について（資料③）
- 「鳴門わかめ認証制度」の「認証機関」の変更について（資料④）
- 台風11号・12号による被災企業者に対する支援措置について（資料⑤）
- 徳島県観光振興基本計画に基づいた施策の実施状況について（資料⑥⑦）
- 徳島県観光振興基本計画の策定について（資料⑧）

酒池商工労働部長

商工労働部から今議会に提出を予定いたしております案件につきまして、御説明させていただきます。

経済委員会説明資料を2種類お配りしております。ともに、平成26年度補正予算に関するものでございますが、そのうち表紙に（その2）と記載のないほうが、開会日での先議をお願いするものでございます。

まず、（その2）と記載がないほうの1ページをお開きください。

平成26年度一般会計につきましては、補正額欄の最下段に記載のとおり、200万円の増額をお願いしており、補正後の予算額は合計で706億1,023万1,000円となっております。

3ページをお開きください。

課別主要事項説明といたしまして、企業支援課でございます。

金融対策費の摘要欄の①金融あっ旋指導費のア、緊急災害対策資金利子等補給補助金におきましては、台風11号・12号に伴う豪雨被害による被災企業者向け融資制度、緊急災害対策資金の利子及び保証料について、市町村が被災企業者の負担を軽減するために、利子等の補給を行う場合、当該市町村に対してその費用の2分の1を補助するものでございます。

続きまして、経済委員会説明資料（その2）の1ページをお開きください。

平成26年度一般会計につきましては、補正額欄の最下段に記載のとおり、4,939万3,000円の増額をお願いしており、補正後の予算額は合計で706億5,962万4,000円となっております。

3ページをお開きください。課別主要事項説明でございます。

まず、企業支援課でございます。

中小企業指導費の摘要欄の①中小企業総合支援費のア、女性の起業・創業支援事業として、女性の起業・創業による地域経済の活性化を図るため、女性を対象とした創業セミナーの開催経費100万円を計上しております。

4ページをお開きください。労働雇用課でございます。

労政総務費の摘要欄の①次世代育成支援対策費のア、働き輝く女性の魅力発信事業として、女性の活躍促進や働きやすい職場環境づくりを図るため、企業等で働く子育て世代の男女を対象とした職場意識や女性の管理職登用に係る取組についての調査等を実施する経費として350万円を計上しております。なお、女性の起業・創業支援事業及び働き輝く女性の魅力発信事業は、輝く阿波おんな活躍加速化プロジェクトとして保健福祉部や農林水産部等との連携のもと、取組を進めることといたしております。

6ページをお開きください。観光国際局でございます。

観光費の摘要欄の①観光交流推進費のア、車で来て見て！観光誘客事業につきましては、四国横断自動車道徳島ICー鳴門JCT間の年度内開通という好機を見据え、県外の高速道路SA等でのキャンペーンや旬のトピックを生かした旅行商品の造成による効果的な観光誘客を図るための経費として770万円を計上しております。

また、イのとくしまマラソン支援事業は、来年3月に開催を予定しておりますとくしまマラソン2015やその後の2万人大会に向けた各種調査の支援経費として3,300万円の増額をお願いしております。

商工労働部において、今議会に提出を予定しております案件につきましては、以上でございます。

よろしく御審議のほど、お願い申し上げます。

続きまして、この際、5点御報告させていただきます。

第1点目は、三井住友海上火災保険株式会社との包括業務協定の締結についてでございます。

お手元の資料1を御覧ください。

三井住友海上火災保険株式会社では、生保・損保会社で初めて、国の経営革新等支援機関としての認定を受け、国内外の幅広いネットワークを活用した地域の産業振興や安全・安心な社会の実現に向けた官民連携の取組を行っております。

去る9月16日、県と同社との間において、県内産業の育成・振興と地域経済の活性化を目的とした四国では初となる包括業務協定を締結し、ロボットビジネス等の新産業の創出や振興、海外進出など、5分野についての県内事業者に対するリスクマネジメントの観点からの各種支援や、セミナーの開催などを連携して取り組むことといたしております。

第2点目は、「鳴門わかめ認証制度」の「認証機関」の変更についてであります。

お手元の資料2を御覧ください。

本件につきましては、さきの農林水産部関係の審査において報告がなされたところでございますが、6月定例会での御論議を踏まえ、今後、鳴門わかめの認証については、農林水産部において行うこととし、商工労働部におきましては、食の安全安心対策統括本部のもと、鳴門わかめ協議会（仮称）が行う認証シールの交付事務に対して支援を行うことにより、鳴門わかめ認証制度の円滑な推進が図られるよう取り組んでまいります。

第3点目は、台風11号・12号による被災企業者に対する支援措置についてであります。

お手元の資料3を御覧ください。

台風11号・12号に伴う豪雨により、県内企業者において大きな被害がもたらされたところであります。そのため、商工労働部といたしましては、直ちに企業支援課内に融資制度の相談に応じる特別相談窓口を設置し、復旧のための相談体制を整備したところであります。また、被災企業者に対しましては、低金利・低保証料の融資制度の緊急災害対策資金を8月14日に創設するとともに、特に災害救助法の適用を受けました、被害が甚大であった那賀町の被災企業者向けに、無利子かつ保証料を不要とする緊急災害特別対策資金を8月27日に創設したところであります。

さらに、先ほど御説明させていただきましたが、一步踏み込んだ支援として、緊急災害対策資金の利子及び保証料に係る市町村向けの補助制度の運用に必要な経費を9月補正予算として計上いたしております。

これら制度の運用により、地域の被災状況を把握している市町村と十分連携し、被災企業者の一日も早い事業復旧・再建を支援してまいりたいと考えております。

第4点目は、徳島県観光振興基本計画に基づいた施策の実施状況についてであります。

もてなしの阿波とくしま観光基本条例の規定に基づき、平成25年度における徳島県観光振興基本計画の事業の検証結果について御報告いたします。

お手元に、平成25年度観光振興施策の実施状況を取りまとめた資料として、概要版を資料4として、また全体版を資料5としてお配りさせていただいております。このうち、資料4に基づき御説明させていただきます。

平成25年度につきましては、7つの基本方針に基づく観光振興施策を図ってきたところでありますが、その主な取組といたしましては、本県初の通年型周遊パスポート「おどる宝島！パスポート」の実施、「おどる宝島！とくしま」キャンペーンに併せて実施する旅行雑誌等を活用した旅行愛好者に直接届く情報発信、更には四国ツーリズム創造機構や瀬戸内ブランド推進連合等との連携による観光誘客の推進などを実施いたしました。これらの事業を検証するために、去る9月4日に観光審議会を開催し、各委員から御意見や御助言をいただいたところであります。

今後とも引き続き、観光振興基本計画に基づき、各種施策を積極的に推進し、観光立県とくしまの実現を目指してまいります。

第5点目は、徳島県観光振興基本計画の策定についてであります。

お手元の資料6を御覧ください。

これまで、関係者の皆様の御協力をいただきながら、観光振興の推進について積極的に

取り組んでまいりました結果、平成25年の本県延べ宿泊者数は約226万人となり、対前年伸び率が全国第3位となるなど、着実に成果が現れてきたところであります。

現計画は平成22年3月に策定し、今年度が計画期間の最終年度となるため、更なる観光客・宿泊者数の増加を目指し、新たな基本計画の策定を行うものであります。計画の策定に向け、去る9月4日に、知事から観光審議会に対して諮問を行い、現在、御議論をいただいているところであります。

なお、計画の概要につきましては、計画期間を平成27年度から平成30年度までの4年間とし、将来の観光を担う人材の育成や「阿波とくしま」の魅力あふれる観光地づくりなど、7つの基本方針をベースラインに、効果の高いところに重点的に打つ形で、観光目的客の取り込み、ビジネス目的客の取り込み、訪日外国人2,000万人時代に向けた取組の3項目を重点戦略として強力に展開することにより、観光誘客の促進を図ってまいります。

今後、県議会での御論議や観光審議会での御審議をはじめ、パブリックコメントで県民の声をいただきながら、本年度内の計画策定を目指してまいりたいと考えております。

説明及び報告については、以上でございます。

よろしくお願いたします。

#### 喜多委員長

以上で、説明等は終わりました。

これより、質疑に入ります。

質疑をどうぞ。

#### 来代委員

2点ほどお伺いします。1つはヴォルティス、1つはv s 東京です。

質問の前に、念のために部長さん、私が質問すると、中には他部局の話もあったりする。しかし、1,000万円とか2,000万円とか県民の税金が絡んでおったりする場合、知事からは、縦割り行政をやめたんだと、横の連携をとって県庁全体の責任として問題の解決に取り組んでいくということをよく伺っております。今も縦割り行政はあるんですか。それとも、知事の言う、各部長全員が責任を持って取り組んでくれるという認識でよろしいですか。当然部長たるもの、何も知らんとは言わないと思いますが、どうなんですか。

#### 酒池商工労働部長

ただいまの来代委員さんの御質問についてでございます。

商工労働部は、庁内各部と連携する事業が非常に多い部でございます。当然その他の部局と連携する事業につきましては、十分内容を把握することに努めておりまして、その連携効果が十分発揮できるように日頃から取り組んでいるつもりでございます。

#### 来代委員

それを聞いて安心しました。

この予算書を見ると、観光とか企業の支援とかいろいろあるんですけども、v s 東京は、ものすごいです。東京に対して徳島が対抗していくんだから、これはすごいと思う。しかし1,000万円の予算が他部局では出ている。県民の税金を1,000万円使うんだったら、当然これは商工も経済効果を狙って、この予算書の中に何か徳島県民のためになる、利益になるという予算が出ていると思っていたら無かった。ということは、このv s 東京、恰好はええんですけども、県民の税金を1,000万円使った上で、県民にはどれだけの利益がもたらされるか計算はできとるんでしょうか。

#### 仁木商工労働部副部長

ただいませ代委員さんから、この1,000万円について経済効果は計算できているのかという御質問がございました。

私ども商工労働部といたしまして、残念ながらこの1,000万円につきまして経済効果を現時点では承知しておりません。

ただ、この1,000万円につきましては、これから新しくv s 東京の名のもとに東京にいろいろ発信していくわけございまして、全庁一丸となって取り組んでいくということでございます。商工労働部といたしましても、この共通コンセプトのもとで、これから先、観光行政あるいは企業、商工労働行政、こういったものに積極的に取り組んで、少しでも早く経済効果が発現できるように精一杯取り組んでまいりたいと考えております。

#### 来代委員

これからでしょう。しかし、県民の血税、貴重なお金を使うんだったら、これだけの効果があるという見通しを立ててから予算を使うべきだと私は思います。こちらが対東京と言ったって、東京の関係者に聞いてみたら、対徳島なんていうことは一言も言っていないということでした。v s 東京と言ったって、東京は徳島のことを何も思っていない。こちらが勝手に言う、向こうには相手にされない。

徳島の農産物あるいは観光商品がいろんな所に出ていって大きな効果を上げているかどうか。この前も、商工会がやられている銀座のコンビニエンスストア、いわゆるサテライトショップを見てきたんですけども、確かにお客さんはいると思いますし、徳島の物があると思う。ところが実際に聞いてみると、裏通りでお客は少ない。同じ1,000万円掛けてやるんだったら、このサテライト、コンビニに、有楽町駅前、新宿駅前とか、もっとしかるべき人通りの多いところへ出ていって、どんどんどんどん利益を上げて徳島の宣伝をしてもらいたいと思います。私どもが行ったのが11時前後です。それなのに、今日はスタヂは入荷していませんという紙1枚。みんなスタヂを買いに来ておるのにスタヂはありませんと。また、阿波おどりがテレビに出ていましたが、音が出ていませんでした。音の無い阿波おどりなんて何しているか分かりません。あれは音を出すべきです。

1,000万円はそちらのほうに使ったほうが私は効果的だったと思います。この1,000万円が無駄遣いに思えてしょうがない。v s 東京をどのように生かしていくお考えがあるんですか。それとも商工労働部としてやめたほうがいいと思うんだったら、即、進言すべき

だと私は思います。

仁木商工労働部副部長

ただいま東京におけます商品展開等につきまして、現状で効果が出ていないと、その中で1,000万円を打って、またその経済効果も分からないのに県民の血税の無駄遣いじゃないかというような趣旨で承りました。

先ほど申しましたように、このv s 東京という言葉の中には、我々県庁職員にとってもこれから東京に向かって、もっとやれという意味合いも込められていると思います。委員の今言っていただきました、現在、十分に対応できていない部分も含めまして、今後この戦略の中で統括本部のもとで精一杯努力してまいりたいと考えております。

来代委員

だから、お金を掛けるんですよ。皆さんのポケットマネーじゃないんです。それでこっちがv s 東京、v s 東京と言ったって、相手が何も思っていないことには、どうにもしょうがない。

ここで金の掛からない、そして経済効果のあることを私が提案しますから、すぐに取り入れてください。

1つは、金の掛からない徳島県の武器と言えば飯泉知事の弁舌です。東京の舛添さんと弁舌大会やったってマスコミは全然騒がない。むしろv s 大阪で、橋下市長と大いに弁舌で勝負してやってみてください。これは世間は騒ぎます。どっちが勝つかおもしろい勝負です。

あるいは、すだちくんv s くまモン、すだちくんv s ふなっしー、こういうものを。これも金が掛からないんだから、同じやるんだったら話題になって効果のある、相手もそれに対応してくる、そういうものをすぐ取り入れて大いに徳島の宣伝に使う。同時にその1,000万円をやめて、あの銀座のサテライトショップを有楽町の駅前とか渋谷とか新宿のもっと人通りの多い所へ県費で移転をさせてやる。そのぐらいの決意が欲しいんですが、いかがですか。

仁木商工労働部副部長

ただいま2点御質問いただいたかと思えます。

まず前提といたしまして、なぜ東京を相手にしているかというところがございます。

今回のv s 東京につきましては、対外発信戦略統括本部の政策創造部からお聞きしているのは、東京に取って代わる新しい価値観を徳島から提案するというのがベースになっておるといってございます。いろんな分野での資源をv s 東京ということで比較の対象を提示することで、イメージしやすくして売り込んでいこうという趣旨だと考えております。それがv s 東京の意味でございますけれども、その中で2点御質問いただきました。

まず、大阪の橋下市長と飯泉知事との弁舌対決ということがございます。知事と市長の対決というのは、例えば広域連合等の中でも議論を戦わせていただいているかと思えます。

それで委員から今そういうお話も含めて意見を頂戴したかと思えます。その政治家対決につきまして、我々はそういうお話があったということ、まず発信という意味で統括本部のほうにもお伝えいたします。

先ほど対東京と申しましたけれども、対大阪という視点で、我々にとりましては、たしかに大阪は、観光誘客の直接の相手方であったり、商工業が出ていく場合であったり、橋を渡った向こう側ということでも身近な存在でもあります代わりに、その大阪圏自体がいわばライバルのようなものでございます。その中で対大阪でどのようにやっていくか、まずは徳島の魅力をもっともっと売り込んで、くさびを打ち込んだ上で攻め、勝った負けたではございませんけれども、徳島はよく頑張っておると、まいったと言わせたいという気概でまず取り組んでまいりたいと思っております。

それから2点目でございます。

すだちくんとくまモンやふなっしーとの対決ということでございます。

このすだちくんにつきましては、今現在投票活動等でやっておりますけれども、確かに個々のゆるキャラと、1対1で何かするというような発想は今まで余りなかったような気がいたします。非常に斬新と申しますか、アイデアをいただきましたので、それにつきましてどういうことができるのかということも含めまして、対外発信戦略統括本部のほうにお伝えをさせていただきます。例えば阿波おどりをすだちくんが踊って、くまモンと対決するとか、そんなことも含まれておるのかもわかりませんが、そういうことも含めお伝えさせていただきます。すだちくん、あるいは徳島県を全国にもっともっと発信、PRできますように取り組んでまいりたいと考えておるところでございます。

#### 来代委員

そんな単純なことをせんと、もっと面白いことをやったらいいんです。例えば、すだちくんとふなっしー、すだちくんとくまモンが相撲大会をするとか、あるいは将棋でもいいし、今人気のあるよさこいの踊りをするとか、もっと目立つことをやらないかん。それで即、取り組まないかん。

それから、知事のすることは全部オーケー、我々の言うことはこれから取り組んでから考えると、そういうことを言うから遅れていくんです。知事であろうと私らであろうと、徳島県民のことを思っているのは変わりがない。だったらそういう言い訳はやめて、即、取り組んで、関西広域連合なんかの道州制対飯泉知事の言う地方創生でもいいじゃないですか。大都会対地方、向こうは何でも地方の切り捨てを言っているんだから、こっちは地方を大事にしておる、そういう議論の戦いに持っていけばいいんです。もうはっきりこの場で、やることを決めませんか。

#### 酒池商工労働部長

今、来代委員さんのほうからいろいろアイデアをいただきました。なかなか我々もそこまでの発想が及ばないところもあるんですけども。

繰り返しになりますけれども、v s 東京というコンセプトにつきましては、東京を対立

軸として明確に意識をしまして、それに対して徳島ならではの強み、例えば商工労働部でありますとLEDバレイ構想とか、あと4K、8Kなんかのコンテンツを作って、全国に向けて情報発信をしておりますが、そういったものをできるだけ多く作ることによって、v s 東京のコンセプトが実現していきたくらうと思っております。

ただいま来代委員さんから御提案いただきました件につきましては、情報発信という意味においては非常に効果的でないかと思っておりますので、対外発信戦略統括本部で十分議論させていただいて、できるだけ早く効果が発現できるような形で検討させていただきたいと思っております。

#### 来代委員

だから、これを作ったのは政策創造部でしょう。単なる創造じゃなしに、そういうことを作らせるのが政策創造部です。残念なのは、東京から来られた人は、徳島の良さが分かっていないかもしれない。だから、こちらから大いに徳島の良さを教えてあげて、徳島はこういうもので戦うんだということを教えてあげてほしいんです。それも県人の部長の役目なんです。このことはすぐ取り組んでくれますか。

#### 酒池商工労働部長

ただいまの来代委員さんの御提案、御指示を踏まえまして、十分対応してまいりたいと思っております。

#### 来代委員

それを聞いて安心しました。

最後に、ヴォルティスについて、これだけ県民が期待をして、これだけ信頼して応援しているのに、奮いません。昔高知の競馬にハルウララって、3,000敗ぐらいしても人気のある馬がおったんですけれども、J1の中のウララヴォルティスって、逆に売ろうという作戦はないと思うんですけれども。今後どうするんですか。

#### 新居にぎわいづくり課長

ヴォルティスのことを話題にさせていただいてありがとうございます。

現在23節まで終了いたしました。3勝3分け17敗、それで現在は18位ということでございます。あと試合が11試合残っております。現状は委員がおっしゃるとおりでございますが、後期に向けまして3人の選手を補強しております。その選手たちの頑張りもこれからまだまだと思っておりますので、そういったことも見ながら、ここからもやはり応援していくのが徳島県民ではないかと思っております。我々先頭に立って応援してまいりますので、どうか委員もお力をいただければと思っております。

#### 来代委員

私の家から香川県が近いんですが、カマタマーレですか、向こうはヴォルティスと入れ



替わるって、すごく期待している声が強いんだけど、あちらも負けてばかりのような気がします。もうJ1に残る見通しは何パーセントですか。

新居にぎわいづくり課長

先ほど申しましたように、現在、勝ち点12で18位でございます。ただ今年につきましては、実はJ2降格圏内の3番手になる12位から16位の辺りが非常に混戦しておりまして、勝ち点が横並びになっております。ですから、希望的な観測ではありますけれども、そのチームが、言葉は悪いですが、お互いつぶし合いをしていく中でヴォルティスがするするっと上がっていく可能性もございます。現状でもう我々が白旗を上げるつもりはございませんので、どうかよろしくお願ひしたいと思います。

来代委員

そこを売り込みましょう。もう残るか残らないか、このあと1勝、あと1引き分け、そのために県民全部で応援しましょうというようなキャッチフレーズでどうですか。わらをもつかむ、とにかくもう後がないんだと。だから皆さんも応援をということで売り込んだら、減った観光客も増えるんじゃないですか。その決意を言っていただいで終わります。

新居にぎわいづくり課長

本当に委員の後押しありがとうございます。

今おっしゃったようなこと、それから実はホーム初勝利もまだでございますので、いろんな意味で、この1戦、1戦という形で応援していきますし、広報してまいります。どうかよろしくお願ひいたします。

森本委員

来代先生からv s 東京の話がありました。プロモーションビデオを見て度肝を抜かれた。このv s 東京、今もフェイスブックで普通に流れています。これを作ったのは総合政策課ですけれども、これは当然、観光の戦略として売り出していないといけないビデオだと思います。フェイスブックでもどんどんシェアをされて流れていて、3日前にアクセスだけで6万件ぐらいありました。多分すぐに10万件を超すと思います。それで読んだ人、見た人は必ずコメントをする。ほとんどが不快だったと言っています。私も第一印象、非常に不愉快な思いがした。対東京で、延々と阿波おどりが流れておる。映像は、お金を掛けているからきれいなんです。このナレーションというのが、東京の俳優に役作りで関西弁を教えたみたいな言葉で、ものすごく鼻につく嫌みな言葉だった。これが延々と四、五分とナレーションをやるわけです。これが不快じゃなくて、良いと思う人は多分ほとんどいないと思います。あのフェイスブックのコメントというのは非常に正直ですから。それで私が、県庁の真意を県議会の経済委員会で伺ってみますってコメントを入れたら、是非お願ひしますというコメントがたくさん返ってきました。

これは総合政策課が作って、仁木さんが作ったわけじゃない、新田さんが作ったわけで

もない。しかしながら、あなた方がv s 東京を使っていかないといけないわけです。当然何回も見られておると思いますが、どう思いますか。

#### 仁木観光政策課長

v s 東京のプロモーションビデオについての御質問でございます。

私どもも、もちろん何度も見させていただきました。阿波弁のナレーションが入っておりまして、阿波おどりを中心にしてベートーヴェンの第九がバックに流れる。そして阿波人形浄瑠璃、農村舞台での活動の様子が出てきたり、また阿波藍であるとか、こういった阿波文化の4大モチーフをふんだんに用いる形で、徳島はこんなにええとこじゃということでの紹介がなされております。

ユーチューブでも流れまして、フェイスブックでのいろんな御意見は私も見ております。もちろん両論が見受けられます。良いという意見といたしましては、徳島県、なかなか思い切ったことをやったと、これはすごいインパクトがあると、なかなかほかの県がやっていないすごい打ち出しをしたといったような声で、頑張っしてほしいという意見もございます。また一方では、v s 東京というのはちょっと分かりにくいんじゃないとか、こういったいろんな御意見があることも承知をいたしております。また、一昨日の昼のテレビでございましたけれども、民放でこの3分数十秒のビデオがそのままお昼に流れまして、テレビのコメンテーターの皆さんもいろいろコメントをしておりました。それは思い切ったことをやっったというコメントが多かったのではないかと考えております。

このv s 東京につきましては、県全体の共通コンセプト、徳島を新しい価値観で発信していこうということでございますので、観光につきましては、徳島ならではの魅力をこの基本的な考え方に基つきまして、こういった徳島の強みを積極的に発信していくということで観光戦略には生かしてまいりたいと考えております。

#### 森本委員

こんな短期間の間にこれだけのアクセスがあるというのは、やはり今言ったように、思い切ったことをしたと、これは間違いない。これはでも炎上効果と言うんです。どれだけ不快なんだろう、見てみようか、怖いもの見たさで見てみようかと。僕は応援するアクセスではないと思います。大体私が見た限りコメントが8対2ぐらいで8割方はすごく嫌な思いをしましたと。画像は800万円も掛けていますから、きれいなんです。だけど最後のほうのナレーション、あそこまで口汚い言い方でしなきゃいけないのかという思いが僕はしておるわけです。このv s 東京、分かるけど、東京の人が見たら多分不快だと思います。恐らく問題にもせんだろうけれども。

現実に県庁の職員何人にも聞きました。褒めた人は1人もおらんかった。非常に嫌な気分がしましたと、でもアクセスはすごいから、効果はあるんでしょうかねというような。今言ったようなこの炎上効果、つまり炎上しているわけです。どんなにか俺も見てみようかと。徳島のプロモーションビデオでわずか1週間くらいフェイスブックに出て6万件なんて普通あり得ないです。私は、相手を怒らせて炎上効果を狙ったんかなと、これは嫌み

じゃなくて思ったんです。

これを、いつ、どこで、誰に対して見せるために作ったのか聞きたいと思います。

#### 仁木観光政策課長

このプロモーションビデオでございますが、委員お話しのありましたとおり、画像が非常にきれいでございますが、阿波おどりを中心にいろんなものがどんどん出てまいります。3分数十秒でありますけれども、見ていきますと非常に時間が短く感じまして、次は何が出てくるんだろうかということで、見ながらぐいぐいと引き込まれるような出来だったと思います。こういった点で大きな話題性になるのではないかと考えております。

観光の誘客につきましては、徳島県でございますと例えば自然でありますとか、文化でありますとか、食であるとか、体験であるとか、いろんないいものがたくさんございます。そういったものを、単なる素材を発信するだけではなくて、例えば女子旅であるとか、シニアの旅であるとか、家族の旅、またお遍路とか、そういったようないろんなテーマ性を持たせた旅のプランを作成しまして、それを個人旅行客の皆様、旅行好きの皆様にも効果的にどんどんと発信をしていく。旅行雑誌を使って、旅行サイトを使って、また旅行エージェントの皆様方に対してそういったプランを提案をして旅行商品に仕立てていただく。そういった取組を戦略的に進めてきましたし、これからも続けてやっていきたいと考えております。

そういった中で、このv s 東京という基本コンセプト、この考え方に基きまして観光の誘客・発信といったことにつきましても進めていきたいと考えております。

#### 森本委員

だから、あのプロモーションビデオはどういう形で広げていくんですか。フェイスブックを見ているのはごく一部です。一般のお年寄りなんか見るわけがないし。どういう形で、全国の人に見てもらっていくのかということ聞いておるんです。

#### 仁木観光政策課長

このプロモーションビデオをどういう形で発信をしていくのかというご質問でございます。

県全体の共通コンセプトということでございますので、もちろん県庁各部、各部局におきまして様々な場面での発信といったことが考えられると思います。そういった中で、どういった出し方が一番いいのかといったことにつきましては、全体の中でもまたいろいろ議論も出てきますし、検討もされていくと思います。そうした中で観光の面につきましても、どういった形で出せば最も効果的に出せるのかといったことにつきまして、今後検討を進めてまいりたいと考えております。

#### 森本委員

まだ正式に表に出ているわけじゃないので、確かに今言ったようにこれからだと思いま

す。やっぱりお金を掛けているわけだし、画像を作った人が相当有名な超一流の方で本当にきれいな画面です。もう何回も言ったけど、僕はあのナレーションが残念でしょうがない。徳島出身の女優さんとか俳優さんをお願いしていたら、良いプロモーションビデオが出来たと思います。もう最後のほうは唾然として人に聞かせたくないような口汚い言い方でやっておるわけです。あれが良いと思ったら、私は絶対おかしいと思います。ああいう口汚い言い方で、見ていてちょっと他県の人に対して恥ずかしくなりました。

だからその点、まだ公開していないのであれば、やっぱりもう少し意見を聞いてみたほうがいいんじゃないかと思います。炎上効果だけで評判になったって観光客は来ませんから。行ってみたいと本当に心から思うようなプロモーションビデオ、あの画面だけだったら絶対そう思えます。

ナレーションは、知事でもいいわけです。あれは多分阿波の人じゃない。普通のアマチュアタレントに無理矢理、関西弁を教えてしゃべらせている。よくそういう映画があります。テレビを見て即席で慌てて関西弁の訓練をして何か月も掛かりましたっていうのが。上勝の映画のときでもそうです。みんなやっぱり違和感があるけれども、それはもう画面が出てくるし、女優さんのことだから許せるわけやけど。

あのナレーションは、絶対徳島の人じゃない。あんな言葉徳島の人はいません。例えば知事とか大杉漣にしゃべらせたりしたら、文章そのものが変わってくるだろうと思います。ああいう口汚い言い方は絶対するわけがないし、僕が担当者であればあのままで発信はできません。だからまだ時間があるし、私はあれは考えるべきだし、知事で十分いいと思います。知事とか俳優とかが標準語で言って、普通でいいんです。

まだ皆さん聞いていないと思うけれども、聞いたら、良いつて多分言わんと思います。画面はきれいなんですよ。すごくきれい。だけどナレーションが良いつて平気で発信ができるのであれば、私は本当に徳島県のことを思っているのか、徳島観光のことを思っているのか皆さんの真意を疑います。これは厳しいですけどね、そのぐらい不快な思いが私はしました。

コメントの中で褒めている人も居ます。だけどフェイスブックのコメントって否定的なんはないんです。つまらないことを書いても、ほとんどの人が賛同している。フェイスブックってそういうものなんです。人に対して、悪口や否定的な事はコメントに書かないというフェイスブックの原則があります。それでも七、八割が批判的にくるというのは、あのビデオに関しては僕はやっぱり炎上効果しか出ていないと思う。だから、これからちょっと知事とも御相談をされて、知事も当然見ていると思うので、作戦を練り直したほうがいいんじゃないかと思います。ナレーションなんて簡単に換えられるじゃないですか。知事でいいです。全然悪くない。多分予算が無いと思うので。知事だったらお金も要らない。私も全面的に否定しているわけではありません。画面とか流れは良いものがあります。だから世間にこれから出していくのであれば、再検討できるならばしてもらいたいと思います。部長、その辺は委員会からこういう意見も出ておるということを、知事さんに伝えてください。やっぱり私は検討すべきだと思います。これを強くお願いをして終わります。ちょっと答弁してもらおうか。

酒池商工労働部長

ただいま森本委員さんのほうからいただきました御提案につきましては、対外発信戦略統括本部のほうで統括しておりますので、まずはそこを通じまして、知事のほうに報告するかどうかというのは、検討してみたいと思います。

喜多委員長

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

以上で、商工労働部関係の調査を終わります。

これをもって、経済委員会を閉会いたします。（13時48分）